

## 彙 報

### 相愛大学総合研究センター研究プロジェクト活動報告

総合研究センターは平成 30 年度から新たに「大学アーカイブの構築」というプロジェクトに取り組んでいる。平成 24 年度からのプロジェクト「日本における諸学問の近代史」、「日本の近代－模倣と創造－」などは、学問や文化の近代化に焦点を当てていたが、今回は、相愛学園そのものの歩みを見つめ直そうという試みである。今年度は 3 回の研究会を開催した。

#### プロジェクトについて

相愛学園は長い歴史を持っているが、資料の乏しさと整理の不十分さによって、その歴史の実態を知ることが困難である。各種の資料は学内の各部署で収集保管されているが、十分に整理されているとは言えず、資源の利用も簡単ではない。また、教育や研究に携わった教職員やその業績についても情報が整理されておらず、音楽学部の山田耕祐、短期大学国文科・人文学部の田中重太郎以外、学内でもほとんど知られていない実情である。

相愛大学と相愛学園の将来を考える基盤として、現時点で収集できる資料を収集し、整理を行い、継承してゆく必要がある。また、各部署に収集されている資料も、定期的な展示を行っているものもあるが、簡易な目録の作成すらできておらず、関係者以外には存在さえ知られていない資料もある。本学の蓄積した資源についての情報を構成員が共有することは、学外への情報発信の基盤の一つとなるはずである。平成 30 年度と 31 年度に、以下の項目に着手する予定である。

#### プロジェクトの概要

##### I 学園史関係資料の収集・整理・調査

###### ①各種の文書類の収集と整理

###### ②旧職員への聞き取りと旧職員所蔵資料の収集

##### II 収集された資料の収集・整理・調査

学術的に有意義なコレクションが収集されているが、一部関係者以外に知られていないものが多く、活用されていない。とくに、以下のコレクションについて、より詳細な調査、整理、広報を実施する。

###### ①折口文庫 ②柿谷文庫 ③春曙文庫

###### ④仏教音楽コレクション・A（飛鳥コレクション） ⑤吉田文庫

##### III 教員データベース（戦後編）の構築

平成 30 年度は、初めての試みであって作業に時間がかかり、上記 I と II について 3 回の研究発表を行うにとどまった。来年度は学園の歴史に立ち会った旧職員への聞き取りも実施したい。

以下、第 1 回から第 3 回までの研究会の概要を報告する。

#### 研究会概要

##### 第 1 回

報告者：鈴木徳男

（相愛大学人文学部教授）

テーマ：「春曙文庫」の成立

日 時：2018 年 11 月 21 日（水）

午後 4 時 40 分～午後 6 時 10 分

場 所：相愛大学 3 号館 243 教室

昭和 63（1988）年相愛学園は創学百周年を迎え、その記念事業の一つとして、春曙文庫が

設立された。前年に急逝した田中重太郎博士が収集した蔵書が、その中核であった。このコレクションの名称「春曙」は、『枕草子』冒頭の一節「春は曙」をこよなく愛され、自身も「春曙庵主」と称して、蔵書にその印を残している田中の遺志を尊重して名づけられている。

同年10月26日から11月5日まで、これら田中の旧蔵書と図書館蔵の貴重書を併せて資料展が開催され「古典籍資料展示目録」が出されている。後に詳細な『春曙文庫目録（和装本編）』（平成5年3月刊行）が刊行され、そこに収められた点数は九九一点、うち田中博士旧蔵書八四三点、今小路覚瑞旧蔵書五六点、図書館既蔵書九二点であった。

このたび、注目したのは、文庫の成立時に、新規購入された書籍についてである（先の目録に△が付されている）。中には、富岡家旧蔵「能因本枕草子」、伊達家旧蔵「三卷本枕草子」、斑山文庫旧蔵「堺本枕草子」、宝玲文庫旧蔵（「月明荘」の印あり）「枕草子抜書」などといった主要な写本類がみえる。これらは、すべて田中の友人、東洋大学名誉教授吉田幸一の旧蔵書であった。田中と吉田の友情は、例えば田中の代表的著書『校本枕冊子』上巻の序（池田亀鑑筆）に「大業を完成させる為に終始一貫変らぬ至誠と友情を捧げた学者として、吉田幸一氏を紹介しその功を讃へることを許されたいと思ひます。田中氏に寄せられた友情といふものは普通の「友情」の概念をはるかに超えて、天上の愛を思はせるものがあります。もし吉田氏の涙ぐましい援助がなかつたならば、恐らく今日の田中氏の偉業は、中途挫折してゐたかもしれません」、同じく総索引第Ⅰ部の「跋」に「献身的な御援助などその他筆舌に尽くし難い御恩」とあるなど、田中自らも吉田への感謝をくり返し述べている。

吉田幸一には国文関係の文献出版「古典文庫」を手がけるなどの業績があり、春曙文庫の成立に関わり、田中を支えた友情が諸資料（『文集吉田幸一先生敬慕』など）からうかがえる。

研究会では、実際に文庫の資料展示を見学し、所蔵品の伝来をたどりながら解説した。

## 第2回

報告者：千葉 真也

（相愛大学共通教育センター教授）

テーマ：相愛学園百年史の周辺

日 時：2018年12月19日（水）

午後4時40分～午後6時10分

場 所：相愛大学3号館243教室

昭和63年10月『相愛学園百周年記念誌』（以下、『百周年記念誌』）が発行された。その編纂の過程で作成され、「ゲラ刷り」という形で活字化されただけで公表には至らなかった年表が存在する。①手稿コピーと②手稿をそのまま活字化したゲラ刷りである。ともに「相愛学園百年史資料集 S61・6・18」という表題のクリアホルダーに収められている。『百周年記念誌』の編集後記などから、昭和61年（1986年）6月の相愛学園百年史編纂委員会発足後、その年の10月9日までに作成されたこと、作成者は編纂委員の久志本秀夫氏であることも推測できる。ただし、この資料ができあがった時点から『百周年記念誌』の発行まで時間的な余裕はなく、「相愛学園百年史年表（案）」は「案」のままに終わったと思われる。

『百周年記念誌』や『相愛学園七十年の歩み』（昭和33年5月）で資料の乏しさが嘆かれている。「相愛学園百年史年表（案）」においても資料の乏しさは同様である。『相愛学園七十年の歩み』所載の年表「相愛学園沿革大要」をもとにして「相愛学園沿革大要」の扱っていない事

項、すなわち明治二一年六月の「相愛女学校設立認可」に先立つ事項と、昭和33年3月の「第八期工事南本館落成」より後の事項を加えたのが、この年表である。皇族に関する記事における敬語の用法など、各種工事における費用の記載の有無その他、全体的な統一を欠くところも少なくないが、手元の資料によって、「案」を作成したと考えるべきであろう。また、昭和33年3月より後の事項は大学音楽学部の行事が詳細に記され、短期大学や高等学校・中学校に関係する事項は非常に簡単なものとなっている。作成された案に短期大学や高等学校・中学校の編纂委員が大幅な加筆をするという前提で作成されたものと思われる。なお、研究会当日には、講堂に設置されているパイプオルガンの製作過程の写真（音楽学部長も務められた酒井諄氏撮影）や、学園史関係資料として収集された写真の紹介も行った。

### 第3回

報告者：荒井真理亜

（相愛大学人文学部准教授）

テーマ：相愛学園と近代文学

日 時：2019年2月13日（水）

午後4時40分～午後6時10分

場 所：相愛大学3号館243教室

相愛女学校に始まる相愛学園には何人かの文学者が在籍していた。与謝野晶子や山川登美子とともに明星派の才媛として知られた茅野雅子、伝統文化から差別、戦争の問題まで幅広い領域で言葉を紡ぎ続けた岡部伊都子、『暖簾』『白い巨塔』『大地の子』で知られる山崎豊子などは相愛出身の代表的な文学者である。（山崎豊子については、本学人文学部主催の公開講座「人文学の御堂筋」で取り上げたことがある。）

また、昭和28年から昭和43年まで開催され

た文芸講演会には円地文子、亀井勝一郎、水上勉<sup>みづかみ</sup>など一流の作家や評論家が登場し、市民に親しまれた。その講演録は「文学と生活」、「文学と人生」、「文芸随想」などの題名でまとめられている。

さらに「相愛学園創立75周年記念誌」には、円地文子、岡部伊都子、亀井勝一郎、山崎豊子などが原稿を寄せている。

以上は近代文学の作家たちが相愛学園と関わった有り様の紹介であるが、最後に本学に寄贈された近代文学に関連するコレクションの紹介も行った。発表の細目は以下の通りである。

#### I 巣立った作家

茅野雅子、岡部伊都子、山崎豊子、久坂葉子

#### II 訪れた作家

昭和28～43年まで開催された文芸講演会の講師たち

井上友一郎、井上靖、円地文子、亀井勝一郎、丹羽文雄、水上勉、森田たま、吉川英治など。

#### III 学園所蔵資料

① 昭和38年5月20日発行の「相愛学園創立75周年記念誌」

寄稿者：円地文子、岡部伊都子、亀井勝一郎、山崎豊子

② ①に関連する書簡と自筆原稿

差出人：円地文子、岡部伊都子、亀井勝一郎、山崎豊子

#### IV 集められた資料

① 折口文庫（関西迢空会から寄贈された民俗学を中心とする集書）

② 吉田文庫（相愛女子短期大学教授で近代文学研究者であった吉田孝次郎氏の集書。明治時代以後の雑誌が、かなり良い状態で保存されている。）

## 平成 30 年度 相愛大学人文学部公開講座

## 人文学を楽しむ PART 2

総合研究センターが後援した人文学部の公開講座「人文学を楽しむ PART 2」の概要を記す。

去年度に引き続き、各講座とも相愛大学本町学舎 F 604 教室を会場として毎回午後 2 時から 4 時まで、人文学部の教員によって五回開催された。日程、題目および担当教員とその要旨は以下の通り。学部スタッフの尽力のおかげで、多くの聴衆があり、一定の成果をあげた。

## 第 1 回 6 月 9 日（土）

「図書館の品ぞろえ 一価値のある本か、よく読まれる本か―」

講師 岡田大輔

まずは、受講者に以下のような本や CD が図書館にあったほうがいいのか問いかけた。

『ゴルゴ 13』『ドラえもん』『ガラスの仮面』などのふつうのマンガ

“嵐” “AKB 48” “氷川きよし” などの流行歌の CD

『水からの伝言』

（きれいな言葉を書いた紙を容れ物に貼って凍らせると、きれいな形の結晶ができる。悪口を書いた紙だと美しくない結晶ができる、という写真集。）

『毎日リング 1 つで水虫が消えた！』（架空）

（「毎日リングを 1 つ食べ続ければ、水虫が治る」という内容。「皮膚科の薬は悪影響だから絶対に塗ってはいけない」とも書かれている。）

受講者に個別に伺いながら進めたが、4 冊目になると受講生の緊張もややほぐれたのか、「そういう説もあるのであるからいいのではないか」「絶対に塗ってはいけない」はまずいと思う」などの意見が出された。

次に、このような本や CD は公共図書館にはごく一般的に所蔵され、誰でも手に取れるところに配架されているという現状を説明した。図書館の目的の 1 つとしてはレクリエーションもあると法律で定められていることから、俗っぽい本や CD は当然所蔵されていること、司書は本の内容に責任を負っているわけではないが、予算には限りがあるのでどの本を買うかは決めないといけないこと、利用者からリクエストがあれば基本的に購入しているので怪しい民間療法の本もあること、図書館によって方針は違うことなどを説明した。「利用者が求める本を買うべき。良い本かどうかは司書が決めることではない」説と「価値のある、図書館にふさわしい本、良い本を買うべき」説のバランスについても解説した。

その上で、すでに購入した以下の本に対して、図書館の来館者から奥にしまうよう意見が出た場合について皆で議論した。

日本禁煙学会から日本図書館協会へ「タバコが良いものという意識を子どもに植え付けるから、子どもに見られるところには置かないでほしい」との意見が届いた『おじいちゃんのカラクリ江戸ものがたり』

最初の版に差別的表現がある『ハリー・ポッターと秘密の部屋』

被差別地域をリストアップした「部落地名総鑑」と呼ばれる種の本

日本図書館協会の回答や「図書館の自由に関する宣言」などを踏まえ、「部落地名総鑑」は現在唯一と言って良い来館者に見せない資料で

あり、図書館が良し悪しを判断するのではなく、図書館は利用者が自ら判断できるよう明らかに問題となった本も保存していることを説明した。

終了後にはなるほどと思える質問も多く寄せられ、受講生の興味と熱意を感じた。

## 第2回 7月14日(土)

### 「中国の江南文化と古代日本」

教授 中村圭爾

この講座の主旨は、古代日中文化交流でよく言及される遣隋使・遣唐使ではなく、それ以前の日中関係を、分裂時代の中国の歴史と関連付けて紹介することである。

漢字発音の一種に呉音がある。これは長江下流南岸一帯の江南地方に行われていた漢字発音が伝わったものであり、江南と日本の関係が、古代日中関係の中で大きな意味のあることを示している。

ここで簡単に古代江南の歴史を通観しておくと、紀元前には「呉越同舟」の故事で有名な春秋戦国時代の呉・越両国の歴史など、江南は独自の歴史世界を形成していたが、秦漢統一帝国時代には、むしろ帝国における後進地域として、歴史の表舞台から後退した地域であった。

この地域に再び脚光が当たったのは、三国時代に孫権が呉王朝を建国した3世紀初めのことである。そして、呉を征服して中国を再統一した西晋王朝が、4世紀初、内乱と前世紀から中国内地に移住しつつあった遊牧諸民族の自立によって崩壊し、その一部が江南に退避して東晋王朝を建国して以後、中国が南北に大分裂した5世紀から6世紀末までの南北朝時代、江南は中国歴史の主要舞台となった。

三国時代は、三国相互の外交関係だけでなく、東アジア全域を巻き込んだ複雑な国際関係

を生み出した。その現れの一つが卑弥呼の魏王朝への遣使であったことはよく知られている。一方、魏に対抗した江南の呉は、魏の背後にある朝鮮半島に積極的な提携策を進めたが、その一環として日本列島にも何らかの働きかけをした可能性があり、その痕跡と見られているのが山梨県と兵庫県で発見された「赤烏」元年、7年の年号を持つ銅鏡である。いずれも孫権時代の230年代のもので、元年鏡は、卑弥呼の遣使と同じ時期である。

この後、ほぼ200年後、倭の五王の記事が中国史書に出現する。倭王に関連する最初の記録は413年。このころ東晋は衰微して、実権は武将劉裕の手にあり、その劉裕が410年北伐して山東半島に割拠していた南燕王国を征服した。一説には、山東半島は当時日本と江南を結ぶ交通路であり、この征服が日本と江南の交流再開の契機となったという。劉裕は420年、東晋を滅ぼして宋王朝をたて、その翌年の倭王讃遣使から478年倭王武の上表まで交流が続いた。武の上表の翌年、南斉王朝が宋に取って代わったが、以後倭王の記事も途絶えた。

以上のような粗筋の中で、文化上の影響として書聖王羲之とその逸話、南朝梁昭明太子蕭統と編著『文選』、最近発見された彼とその母の墓、南朝王陵と墓前の石刻なども図版を中心に紹介した。

## 第3回 9月15日(土)

### 「ベストセラーとブランド学」

講師 向井光太郎

担当のテーマを「ベストセラーとブランド学」とし、これまで永く愛されてきた日本を代表する様々なヒット商品やロングセラー製品をケースとして捉え、受講者の生活に深く関わるブランドの力を体感する機会とした。講師の自

己紹介に生誕および生活拠点として大阪難波エリアの特定スポット（スポーツ用品小売）を舞台にして、製品・音楽・ファッションのヒット商品について、実生活の中でどのようなブランド認知プロセスがあったのかを説明し、受講者にもそれらに関連するブランドおよびそのブランド製品にまつわる思い出やストーリーを発信してもらうコミュニケーション機会を取り入れ、ブランド要素の中に含まれるべき物語性についても解説した。さらに、商品サンプルとして複数のベストセラー製品を講義に用いて、パッケージやデザインを含めてブランドの強みや魅力をコメントする機会を取り入れ、講師に加えて受講者とブランドパワーを共有するインタラクティブなコミュニケーションに基づく学習機会も創出することとなった。講義に用いた事例については、受講者の年齢に合わせてブランド誕生 50 年から 100 年のケースを用いて、親近感と関心を高める効果を狙うと共に、昨今の流通業の中で進むプライベートブランド戦略では得られない、愛着や身近な温かみといった人間形成に大きな影響を及ぼすオリジナルブランドの底力としての魅力を再認識した。今回の受講者は、学習意欲が高く好奇心が豊かな面で全員に共通点があるので、街の中に身を置くことが学びのモチベーションに大きく貢献しているはずだ。そのため、物やサービスに対するブランド認知や連想だけではなく、地域としてのブランドも取り上げた。本町、船場、北浜、中之島の中に、その場所をそれぞれ象徴する場所や建物が所在し、歴史や文化に深く関わってその場の価値を高めている。評価の大小を問わず、それらの地域ブランドは市民のライフスタイルを形成するために何らかの影響を与える不可欠な存在でもある。その地域や場所とモノやサービスをブランドが共通項となってスタイルを形

成し、それらのどれかが起点となってスタイルを形成することもある。私達の生活を楽しく幸せにするブランドの底力について、コミュニケーション重視のスタイルで学んだ今回講義を、さらにマーケティングの世界を深く学ぶ次の機会につなげたい。

#### 第 4 回 10 月 20 日（土）

##### 「絆 ―心理学から読み解く―」

教授 初塚真喜子

近年、心理学の領域では「絆」にまつわる研究が進展しつつある。本公開講座では、心理学とその隣接領域における「絆」をテーマとした研究の動向を紹介し、そこで得られた知見を手がかりとして、現代人の心理構造を読み解くとともに、そこから導き出される社会生活・日常生活への心構えについて考察した。

##### 1. 「絆」の形成と広がり ―アタッチメント（愛着）の発達―

人が最初に他者との絆を経験するのは、乳幼児期に特定の養育者（親、保育者など）との間に形成するアタッチメント（愛着）の絆である。ヒトには、危機的な状況で不安や恐れを感じたとき、他者にくっつくこと（attachment：アタッチメント）で安全・安心の感覚を回復させようとする本能が備わっており（Bowlby）、乳児期から養育者にくっつくことで不安・恐れを取り除き、安全・安心感を回復させる経験を積み重ねることで、「自分は他者に受け容れられる存在である」というイメージ（自己効力感）、「他者は信頼できる存在である」というイメージ（他者への基本的信頼感）が育まれていく。そして、児童期・青年期以降においても、そのイメージを基盤として、他者との間で円滑に関係性を構築できるようになり、社会において適応的に行動し、他者との絆を広げていく。

このような形で、乳幼児期に特定の養育者との間で経験したアタッチメントの絆は、生涯にわたって、その人の対人関係、他者との絆の形成に影響を及ぼす。

## 2. 「絆」の光と影 —「絆」を渴望し「絆」に 疲れる私たちの心理—

児童期・青年期以降の「絆」の展開との関係で、近年、注目されているのが、「絆の光と影（高木・戸口）の問題である。多くの人とつながっていること、「絆」が多いことが、自己効力感や幸福感に影響する度合いが強まる傾向にあり、特に、東日本大震災からの復興にあたって「絆」がスローガンとされたこと、また、SNSの普及によって「いつでも、どこでも、誰とでも」他者とつながり「絆」を結ぶことが可能であるかのような認識が広まったことで、「絆」を渴望する心理が構造的に拡大している。それに伴う問題として、「絆を多く持たなければならない、絆から取り残されてはならない」との観念による「絆ストレス」（香山）を感じる人が増え、心理臨床の現場での1つのトピックスとなっている。

## 3. 「ゆるやかな絆」・「ほどよい絆」のススメ

このように、「絆」が重視される現代社会では、「絆」の量的拡大を望むあまり、日常生活がストレスフルになりがちであるが、先に紹介したアタッチメント（愛着）の基本的な考え方は、「特定・特別な1人」との良好な絆があれば、それが良好な対人関係の基盤になるというものであり、「絆」の数の多さは必ずしも重要なことではない。「いつでも、どこでも、誰とでも」つながっていなければならないという観念にとらわれず、適度な距離感、「ゆるやかな絆」、「ほどよい絆」を心がけることが、良好な対人関係とメンタルヘルスにとって大切なポイントとなる。

## 第5回 2月16日（土）

### 「信仰の共存について考える」

教授 釈徹宗

我々はこの世界を言葉や理念で分節して認識している。民族・国家・信仰なども、この世界を分節するストーリーである。そのストーリーに自己投機する営みが信仰だと言えよう。ここで重要な点は、それぞれのストーリーを互いに懸架し合う作業である。

今回の講座のテーマは「信仰の共存」とした。共存とは異質を互いに尊重する状況を指す。すなわち「同一化」とは異なる。「信仰の共存」において要となるのは宗教間対話であろう。

宗教間対話はとてもシンプルで容易な取り組みなのだが、なかなか実を結ばないという性質のものである。しかし、さまざまな信仰が共存するにはそこにしか扉はない。どのような姿勢で対話に取り組めばよいのかを考えたい。

結論から言えば、宗教間対話への態度について、「異なる信仰への理解と敬意と対話」「社会という丸テーブルに着席する」「近接領域を学ぶ」「教義体系内のリミッターを立ち上げる」「宗教の時間は長いので、先送り・棚上げの態度が重要」「理解や共感を前提としない」「宗教に無関心な者の当事者意識」「信仰の加害者性の自覚」などが重要ポイントであると考えている。

### (1) 宗教間対話のタイプ

宗教間対話について、アラン・レイスが3つのタイプに分類している。排他主義（exclusivism）、包括主義（inclusivism）、多元主義（pluralism）の三つである。

また、近年では包括主義や多元主義的な言説が少なくなり、代わって個別主義（particularism）が注目されている。個別主義とは、各宗

教のアイデンティティや体系は思想・倫理・言語・実践の全体的ネットワークなので、他者が入り込むことは困難であるとする立場である。

このように宗教間対話への取り組みがある一方、立ち上がってきたのがファンダメンタリズム（原理主義）である。世界の宗教事情を俯瞰すれば、むしろこちらの流れの方が強力であるとも言える。

## (2) 呼応への道

宗教間対話というのは、草の根的な活動が本質であると思う。「誰かが仲介役として登場し

て、啓蒙活動を行い、手際よく問題を解決する」などというものではない。そして、草の根的な取り組みの歩みは微小なものである。大きな対立抗争が起これば、吹き飛んでしまうような微力なものでもある。しかし、この道しかないのである。チープな宗教情報に振り回されることなく、真摯に道を歩み続ければ、必ず呼応現象が起こる。ジョージ・エバースが言うように、「宗教間対話は、その失敗にも関わらず、この骨の折れる仕事以外に選択肢はない」のである。

**平成30年度 相愛大学人文学部公開講座**

# 人文学を楽しむ Part 2

日ごろ人文学部の活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。毎年恒例の公開講座を下記の通り開催いたします。  
 本学の教員がそれぞれの専門分野（図書館情報学・東洋史・マーケティング・臨床心理学・宗教学）の話を存分に語ります。  
 人文学の広がりや深さを楽しんでいただけるものと存じます。  
 本年度も引き続き、多くの方々のご来場を心よりお待ちしております。

<p><b>6月9日</b> 図書館の品ぞろえ ～価値のある本が、よく読まれる本か～</p>  <p>講師 阿田 大輔</p>	<p><b>7月14日</b> 中国の江南文化と古代日本</p>  <p>教授 中村 圭爾</p>	<p><b>9月15日</b> ベストセラーとブランド学</p>  <p>講師 向井 光太郎</p>
<p><b>10月20日</b> 絆～心理学から読み解く～</p>  <p>教授 初塚 真喜子</p>	<p><b>2月16日</b> “宗教の共存”について考える</p>  <p>教授 積 徹宗</p>	<p><b>入場無料</b> (お申し込み不要)</p> <p>※当日、満席になり次第締め切らせていただきます。          ※全5回ご出席の方には最終回に修了証をお渡しいたします。          ※講座の妨げとなる行為をされた場合、ご退席していただくことがあります。</p>

**日時** 土曜日 14時～16時 (13時40分より受付開始)

**実施場所** 相愛大学 本町学舎 F604教室  
 Osaka Metro御堂筋線「本町」駅C階段④出口より徒歩5分

**お問い合わせ先** 相愛大学人文学部合同研究室 (平日9時00分～17時00分)  
 〒559-0033 大阪市住之江区南港中4-4-1  
 TEL: 06-6612-6253 E-mail: jinbungakubu@soai.ac.jp



主催: 相愛大学人文学部 後援: 相愛大学総合研究センター



### 教員免許状更新講習（高・中）

本学においては、中学校・高等学校教員免許に関する教員免許更新講習の認定を受けて、2009年度以降、実施してきており、選択領域「教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項」について、2009年度に音楽科、2014年度に音楽科、2015年度に国語科、2016年度に音楽科、2017年度に国語科の教員を対象として、講座を開催してきた。今年度（2018年度）には、国語科に関して、3つの講座を開催した。教員免許更新制は、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることができることを目的とし、各時点で求められる教員としての必要な資質能力を保持し、定期的に最新の知識技能を身につけることを目指すものである。

今年度の講習の各講座のテーマは、講座Ⅰ「和声学－基礎から応用まで－」（担当：赤石敏夫教授、8月7日実施）、講座Ⅱ「合奏指導の論理と実践」（担当：前田昌宏教授、8月8日実施）、講座Ⅲ「吹奏楽・器楽合奏での「あらゆる打楽器の基礎奏法」と「打楽器アンサンブルの楽しみ」（担当：中谷満教授、8月9日実施）であった。

講習後の受講生へのアンケートでは、「『音楽の原点に戻り、何が大切かを考えさせられるいい研修だった』、「講義をお聴きし、今までモヤモヤしていたものを言語化していただき、認識することができたのでスッキリした。現場で生徒と音楽を作っていく時にも、自分が音楽と向き合う時にも心に留めておきたい」、「これからの教員人生の宝になる時間だった。現場に帰り、子どもたちへ返していきたい」、「同じ演奏を他の先生方と聴いて意見を述べる体験は他で

はできない貴重なものだった」等の感想が述べられた。

各講座の内容は以下の通りであった。

#### 〈講座Ⅰ〉「和声学－基礎から応用まで－」

音楽理論の根幹をなす「和声学」について学習する。基礎から学び、バス課題、ソプラノ課題と進め、最後には旋律への和声付けまでを目指す。音楽の学習を進める上で必ず学んだ和声学を学び直し、再確認する。



#### 〈講座Ⅱ〉「合奏指導の論理と実践」

楽曲の解釈と分析に基づいた、より高度な演奏へのアプローチを試みる。相愛大学音楽学部学生によるアンサンブルに実施指導し、その成果を問うことを目指し、以下の順で進める。

1. 合奏に対する基本的な考え方を説明する。
2. より高い次元での演奏を考える。
3. モデル演奏に対し、具体的な対処を解説する。
4. モデル演奏に対し、受講者による実施指導を評価を行う。



〈講座Ⅲ〉「吹奏楽・器楽合奏での「あらゆる打楽器の基礎奏法」と「打楽器アンサンブルの楽しみ」

以下の順で進める。

1. オーケストラにおける打楽器の歴史
2. 基礎リズムの演奏法。大太鼓、小太鼓、シンバルとラテン楽器の演奏法。
3. ティンパニの基礎奏法。ベートーヴェン交響曲『運命』等のティンパニ演奏体験。
4. 打楽器アンサンブルの楽しみ。ボディパーカッションの参加演奏。



(長谷川精一)

## 教員免許状更新講習（幼稚園）

### 1. はじめに

子ども発達学科に幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状に係る教職課程が設置され、10年以上が経過する。数年後には、本学科卒業生も教員免許状更新講習（以下、更新講習）の受講対象者となる。母校で更新講習の開催を定着化し、卒業生に安心を提供するとともに、大学としての社会貢献及び現場との協働等の必要性を考え、平成29年（2017）年度から実施を開始した。本学と連携事業の実績がある大阪府社会福祉協議会保育部会や、年間を通して定期的に連絡・勉強会を共同で実施している大阪市私立保育連盟加盟園からも強い要望があり、実習・就職等でつながりのある教育・保育現場の期待・信頼に継続的に応えるため、平成30（2018）年度も開講した。

周知の通り、教員免許更新制は、平成21（2009）年4月1日から導入されている。その後、子ども・子育て支援新制度開始に伴い、幼保連携型認定こども園の保育教諭や幼保連携型認定こども園への移行の可能性を踏まえた認可保育所の保育士の受講ニーズが増大している。その傾向はますます高まっている。特に、幼稚園教諭や保育教諭に向けた内容を特化した講習（必修領域、選択必修領域及び選択領域それぞれ）の開講数が、全国的にも未だ不足している。このような実情と、教員免許更新制の目的である「その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指す」という点を踏まえ、さらに各講座内容を充実させて開設した。講座内容とし

て、幼稚園教諭・保育教諭が現場で抱える課題をテーマにした必修領域、選択必修領域及び選択領域すべての領域を5講座セット受講の形で開設し、5日間の一括受講で免許更新講習を修了できるようにした。なお、昨年度の受講者からのアンケート結果を踏まえ、休日開講日を設定するとともに、選択講座として、ニーズの高いカウンセリング分野を開設し、3講座から4講座に増設して実施した。

### 2. 実施内容

#### 【実施年月日】

平成30年8月7日（火）・8日（水）・19日（日）・20日（月）・21日（火）（5日間）

\*5日間とも、9:30～16:40に講義・演習・筆記試験、16:40～16:50にアンケート実施。

#### 【会場】

相愛大学南港学舎（学生厚生館 S307・6号館 320）

#### 【定員】

100名（申込みは先着順）

#### 【講習運営事務局】

子ども発達学科講習運営担当部（中西・直島・松島・曲田・和田・社）

\*子ども発達学科合同研究室に事務局を開設し、教学課と連携して運営した（教職課程合同研究室とは独立運営）。

## 【講座名・担当者等】

\*全講座（5 講座セット／選択Ⅰ・Ⅱは同日開講で、どちらかを選ぶ形式）での受講。

区分	講座名	開講日	講師名
必修	今、園づくりに求められる幼児教育の在り方	8月7日（火）	中井 清津子
選択必修	園、家庭、地域との連携及び協働	8月8日（水）	中西 利恵
選択Ⅰ	子どもをめぐる社会問題と子どもの権利	8月19日（日）	松島 京
選択Ⅱ	保育の質を支えるカウンセリングの理論と技法		実光 由里子
選択Ⅲ	子どもと環境	8月20日（月）	曲田 映世／進藤 容子
選択Ⅳ	発達障害のある子どもへの支援	8月21日（火）	直島 正樹

## 【講座内容】

各講座とも、現在の教育・保育現場が抱える課題を取り上げた。ここでの学びを持ち帰り、

日ごろの教育・保育に役立て、幼児教育の質の向上につながるよう、以下のような内容で構成した。

### ○必修：今、園づくりに求められる幼児教育の在り方（中井 清津子）【講義（演習含む）】

必須領域の「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」についての講義内容を設定し、幼児教育の今後を展望する新たな視点の獲得をめざします。特に新幼稚園教育要領の求めている方向性について理解し、各自の実践を通して協議を深め、「幼児教育の質的向上」を求めた幼児教育の在り方について考え、実践力の向上につなげていきます。

### ○選択必修：園、家庭、地域との連携及び協働 中西 利恵）【講義（演習含む）】

乳幼児期における教育及び保育において「園、家庭及び地域の連携及び協働」として、園における生活が家庭や地域社会との連続性を保った展開、地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を活用し、園児が豊かな生活体験を得られるような工夫、保護者が乳幼児期の教育及び保育に関する理解が深まるよう家庭との連携、小学校教育への円滑な接続に向けた連携などの取組が求められます。本講習では、それらのあり方や実践について考えていきます。

### ○選択Ⅰ：子どもをめぐる社会問題と子どもの権利（松島 京）【講義】

近年の社会状況の変化に伴い、家庭内暴力・虐待、貧困、不就学、無戸籍など、子どもをめぐる社会問題は増えています。今後、幼稚園等教育・保育施設における子どもと保護者に対する支援はますます求められるでしょう。

本講習では、これら問題群の現状と社会的背景を整理したうえで、現場実践につながる、保育者に求められる支援のあり方（子どもの権利保障という視点の重要性）について考えていきます。

### ○選択Ⅱ：保育の質を支えるカウンセリングの理論と技法（実光 由里子）【講義（演習含む）】

人は誰しも各々の信念や価値観を持ち、それに基づいて自分を取り巻く世界を知覚します。これに気づかないまま他者と接すると、相手を意図せず傷つけてしまうことがあります。保育者自身の気分の落ち込みや苛立ちにもつながるでしょう。

本講習では、カウンセリングの理論を学び、自己への気づきや理解を深めます。また、技法の演習を通じて、子どもや保護者により良い関係を構築する対応を探っていきます。

### ○選択Ⅲ：子どもと環境（曲田 映世・進藤 容子）【講義（演習含む）】

「音環境」を教育的な視点から捉えます。自然音も含めた身の回りの音から子どもの感性を高める方法や音環境のあり方を考えていきます。また、「子どもの食」を教育の視点から捉え、子どもの主体的な活動をひきだし、心身の発達をうながす食環境とは何か、教育者としての視座を探ります。

#### ○選択Ⅳ：発達障害のある子どもへの支援（直島 正樹）【講義（演習含む）】

近年、幼稚園や保育所等の教育・保育現場において、発達障害のある子どもが増加していると言われます。各現場では、そのような子どもへの支援について、さらには保護者に対する支援のあり方が問われ、試行錯誤をくり返しています。

本講習では、発達障害のある子どもを取り巻く現状、特性等を整理したうえで、子どもの「理解のしづらさ」、教育者・保育者に求められる子どもおよび保護者への支援のあり方等について考えていきます。

### 3. 実施状況と結果

本学ホームページでの開講告知前から複数の問合せがあり、申込み開始初日（5月21日）には定員を超え、募集を締め切る状況となった（申込み期間は6月9日までで設定）。その後、現場業務の都合等による辞退者があったものの、最終的には105名の受講者数となり、全員が全講座を修了された。受講者の中には、学生の実習先、就職先等、本学とつながりのある園の先生が複数おられ、各講師に親しく声をかけてくださった。

各講座終了後のアンケートでは、「いずれの教員の講座も内容がわかりやすく、楽しく受講できた」「現在悩んでいる保育が少し改善できそうな内容もあり、実践してみようと思った」「長年教員として現場に勤務していると気付けないことを学べた」等の感想・意見が多数を占めた。その他、「5人の先生方のお話が根底でつながっていて、興味深かった」といった感想もあり、本講習開講の意義や、担当教員間の連携の重要性等を改めて確認できた。

また、講習初日と3日目（選択Ⅰ・Ⅱ同時開講日）に、本学科学生らがスタッフとして駅から会場までや食堂等への学内案内を担当した。学生スタッフに対し「朝早くから駅の案内、校舎内の案内も笑顔で対応してくださり、うれしかった」「とても親切で印象が良かった」等、うれしい感想があったことも付記しておきたい。

### 4. 今後の計画と課題

実施後に、講習運営事務局及び講師全員で振り返り会議を行い、実施の検証と次年度に向けた課題の抽出を行った。講義内容をはじめ、開講告知の時期・日程、受講要項への記載内容・方法、募集締め切りのタイミング、事務作業のあり方等について経験・反省を踏まえ、次年度の計画を検討した。

今後も、地域における教育研究機関として貢献すると共に、卒業生等のリカレント教育機関としても継続的な学びの場を提供するため、より現場のニーズに対応した教員免許状更新講習（幼稚園）になることを目指していきたい。

（文責：直島・中西）



講習風景

## 相愛大学研究助成報告

### 相愛大学研究助成 重点研究 A

人間発達学部発達栄養学科 庄條愛子

#### 【研究課題】

減塩調理食品の食味と Na、Cl および K 濃度、組織学的評価による科学的特徴づけ、関西薄味調理におけるうまみの科学的評価

#### 【研究期間】

平成 27 年～29 年

#### 【研究組織】

庄條 愛子、水野 淨子、宮谷 秀一（平成 27 年のみ）、杉山 文

### 1. 研究の目的

発達栄養学科は相愛大学の建学の精神である「當相敬愛」にもとづき、食育に重点をおいた教育による地域社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の養成に努めている。この目的を遂行するにあたり、多年度にわたって「減塩みそ汁講座」、大阪府内事業所食堂での質問票調査を含む減塩啓発活動など産官学で連携した食育に関連する様々な連携事業を実施している。本研究はさらなる減塩推進のため、減塩調理の特性、デメリット、改善点をふくむ科学的根拠を明らかにするだけでなく、栄養生化学、ライフステージ栄養学、調理学および食品科学分野を専門とする教員が協力して学際的・複合領域的に取り組むことで、発達栄養学科全体の総合研究とすることも目的とした。

### 2. 研究目標の達成を目指して実施した主な研究と成果の概要

#### (1) 減塩調理食品の食味と組織学的評価による科学的特徴づけ

##### 1) 減塩調理の評価

##### ①異なる年齢層における口腔内塩分濃度と官能評価

- ・対象者：大学職員（24～68 歳、16 名）、大学生（18～22 歳、41 名）
- ・減塩調理：主菜「鶏肉のはちみつレモン焼き」、主食「スタミナニラ玉チャーハン」
- ・分析方法：口腔内塩分測定および官能評価用紙による質問票調査

##### ②若年層の口腔内塩分濃度と官能評価

- ・対象者：大学生（18～22 歳、41 名）
- ・減塩調理：主菜、主食
- ・分析方法：口腔内塩分測定および官能評価用紙による質問票調査

本研究のソルセイブによる口腔内塩分濃度測定の結果から、大学生は大学職員に比べて塩分閾値が低く、減塩調理の「減塩感」を感じにくいことが分かった。また、調理方法と味覚評価の結果から、表面積が大きくなる米などの減塩調理は減塩感が目立つため、香辛料の活用などの調理の工夫が必要であることが分かった。一方、肉や魚などのたんぱく質を多く含む食材は、調味料である糖とのアミノカルボニル反応による「焼き色」「香ばしさ」を醸成しやすく、減塩感をほとんど感じないことが明らかとなった。

##### 2) 減塩調理食品の組織学的、科学的評価

##### ①減塩調理の科学的評価：減塩調理のうまみ関連成分の評価

減塩調理に含まれる各種うまみ関連物質（遊

離アミノ酸、核酸および脂肪酸)を HPLC、GC/MS で定性および定量した。

## ②減塩調理の科学的評価：減塩調理のテクスチャーの評価

減塩調理の特徴である味とテクスチャーについて、官能評価および化学分析機器（テクスチュロメーター）で測定した結果から、減塩調理の味気無さは香辛料や焦げ目の活用により低減可能であること、減塩調理は通常調理に比べて食感が硬いことが分かった。

また、「だし」成分に含まれる遊離アミノ酸、核酸の量を質量分析装置で測定した結果、「かつおだし」には遊離アミノ酸だけでなく、ATP 分解物である核酸系うまみ 5'-IMP が豊富に含まれることが明らかになった。このことから「かつおだし」単独でも核酸系うまみとアミノ酸系うまみの「うまみの相乗効果」が得られることが推察された。

以上の減塩調理の特性、デメリットに対する科学的結果から、減塩調理では①味気無さを補う調理法の活用、②調理の硬さを改善する調理法（下ゆで、だしでの予備加熱）の活用、③「かつおだし」などの活用が有効であることが明らかとなった。

## (2) 関西薄味調理におけるうまみの科学的評価

### 1) 関西薄味調理の科学的評価：各種温度による「かつおだし」の抽出と質量分析

20～100℃ までの異なる温度で抽出した「かつおだし」に含まれる遊離アミノ酸、核酸の量を比較した。その結果、通常の調理温度帯で抽

出した「かつおだし」には遊離アミノ酸だけでなく、ATP 分解物である核酸系うまみ 5'-IMP が豊富に含まれることが明らかになった。このことから「かつおだし」単独でも核酸系うまみとアミノ酸系うまみの「うまみの相乗効果」が得られることが推察された。

### 2) 関西薄味調理の科学的評価：減塩調理のテクスチャーの評価

通常調理と関西薄味調理のかたさ、もろさ、粘性などのテクスチャーの測定、数値解析を実施した。その結果、調理は複合的な物質であるため、アミノ酸、タンパク質、脂質、水分が経時的変化を受けやすく、調整後のテクスチャーの変化が著しいことが明らかとなった。

## 3. 研究内容・成果の公表

- ①減塩調理の官能評価と調理技術の活用、第 23 回日本健康体力栄養学会（2016 年 3 月 5 日（土）、神戸：ポスター発表）
- ②壮年・実年期男性に対する減塩食介入試験、第 23 回日本健康体力栄養学会（2016 年 3 月 5 日（土）、神戸：ポスター発表）
- ③壮年・実年期男性に対する減塩食介入試験、日本健康体力栄養学雑誌、20 巻（1）、22-28、2016 年
- ④Analysis of phosphatidylethanolamine, phosphatidylcholine, and plasmalogen molecular species in food lipids using an improved 2D high-performance liquid chromatography system., Journal of Chromatography B., 1077-1078 巻、35-43、2016 年

# 特別演奏会助成公演報告

W. A. モーツァルト作曲 オペラ  
《フィガロの結婚》  
(全四幕原語上演・抜粋)

音楽学部准教授 泉 貴子

【日時】2018年2月23日(金)18時30分開演

【会場】いずみホール

【入場料】3,000円

【出演者・監修】

指揮：奥村哲也\*\*／監修：岩田達宗\*\*

アルマヴィーヴァ伯爵：米田哲二\*<sup>1</sup>

伯爵夫人：泉 貴子\*<sup>2</sup>

フィガロ：山田健司\*<sup>1</sup>

スザンナ：田坂蘭子(卒業生)

ケルビーノ：木澤佐江子\*\*

バルトロ：片桐直樹\*\*

マルチェリーナ：畑田弘美\*\*

バジリオ：馬場清孝\*\*

クルツイオ：出口 武\*\*

アントニオ：萬田一樹\*\*

オーケストラ：相愛大学フィガロオーケストラ

チェンバロ：小椋由美子\*\*

ナレーション：梅 千晶(卒業生)

\*<sup>1</sup>…相愛大学教授 \*<sup>2</sup>…相愛大学准教授

\*\*…相愛大学非常勤講師

【来場者数】518名(招待含む)

【公演目的】

総合芸術であるオペラ作品を用いて、限られた空間の中での視覚的・音楽的効果の融合を試

み、いかに客席へのアプローチをするかという考察を目的とした。現在世界各地で集客数の大規模な劇場でのモーツァルト作品の上演回数は多いが、モーツァルトの時代にはまだこういった劇場は殆どなく、存命中にベルリンの国民劇場といわれる劇場で作品が上演され好評を博したという記録が残っているくらいで、多くの作品は宮廷内の劇場で上演されてきたといわれている。こうした当時の様式や編成を再現させる公演は、昨今様々な団体によって上演される機会が少しずつ増えるようになってきた。今回こうした当時の形式、編成を踏襲したものに近いものを維持しつつ、コンサートホールでの音響的、演出的効果を利用して、同じ舞台上にオーケストラと歌手が演じるアクティングエリアを配置し、あえてシンプルな舞台装置の中でどのように客席にアプローチができるかということテーマに公演を行った。また簡素化した舞台であることは、より凝縮した音楽表現の提示を求められることに繋がると考えた。

最近では欧米の主要歌劇場においても予算削減等の理由で、大掛かりで台本にある時代設定に準じた舞台装置等を使用せず、現代版に置き換えた演出が非常に多くなってきた。しかしモーツァルトのこの作品のように、王侯貴族政治に対する批判を風刺するメッセージが基盤にある作品を、現代版に置き換えることは、オペラ作品のもつテーマの要素を損なうことになる。よってある程度の時代考証の衣装フォルムなどを失わないことで、この時代の貴族社会に対するメッセージを視覚的効果によって伝えることを考慮した。

衰退してきているオペラというジャンルの上演に対して問題提起をしながら、オペラに対する新しい概念を与える機会となるこの公演は、これからの時代に向け大変有意義な結果をもた



らすことが期待できると確信して公演することに至った。

### 【この公演に至るまでの状況】

このたび申請した声楽教員3名（山田、米田、泉）は、学生に対する音楽的、演劇的指導以外に、オペラに出演して、同じ舞台上で共演するという関わり方で前項に記載した研究テーマを考察・実践してきた。とりわけ山田健司、米田哲二両教員は自身の国内外での多くのオペラ出演の経験を活かして、全くゼロの状態であった本学のオペラ関連授業をたち上げ、開講時からその発展に力を注いできた。その結果大学の学生オペラとしては類をみないオペラ公演の実現を遂げて、現在の学内公演の形となった。本来であればオペラ団体の研修生育成カリキュラムで修得できるような教育環境を大学で学べるように整え、現在国内外の劇場で活躍する卒業生を輩出してきた。

こういったこれまでの約30年間にわたる研究の総括として、今回共同研究の申請に至った。学外へこうした研究成果を発信することは教育機関として重要なことであると考えている。そして本学には国際的に活躍する大変優秀な学生や卒業生がおり、彼らで結成するオーケストラが存在している。オペラ公演をしている大学は他にもあるが、これほど素晴らしいオーケストラと共にオペラができるのは相愛大学で



しかありえないことであろうと確信している。

### 【公演報告】

前述にある公演目的を踏まえ、音楽稽古から立ち稽古と進めていく中で一番歌手の頭を悩ませたのは、同じ舞台上にオーケストラとアクティングエリア（本来は舞台下に設置されるオーケストラピットにオーケストラが入るため、舞台上全てがアクティングエリアになる）の両方が存在するため、狭小なアクティングエリア（縦3m×横9m×高さ60cmの壇上）で演じることであった。その為大掛かりな大道具が使用できなくなったこと、また出入りの場所も限られ、6重唱やフィナーレといった大人数のキャストが舞台上にあがるシーンは非常に配置を決めるのに苦労をした。また当日実際現場に行ってから舞台セッティングをしてみると、最前列の客席からはアクティングエリアが見づらいということが判明し、様々な客席の角度からの

検証・確認も行うこととなった。舞台上にある物は最小限度のものにし、衣装も本来広がりのあるものからコンパクトに、しかし役柄のもつキャラクター、身分設定はフォルムやシルエットによって観客にわかるよう考慮した。

こういった簡素な舞台（しかし観客の目には決して貧素に映らない）であるにも拘らず、オペラの内容に観客が引き込まれていく公演は、外部のオペラ団体でも近年試みられている。しかし多くの団体がしているものはオーケストラではなくピアノでの演奏が多く、今回この公演でオーケストラにしたのは、相愛大学ならではの特色があらわれる公演としなければならないと考えたからである。

その結果視覚的にシンプルな舞台の中に楽団が同じ空間に存在し、楽器の色彩豊かに折り重なる音色がホール全体を包み込み、聴覚的に立

体感を演出することができた。実際ご来場くださった方々からは、「舞台の簡素化がよりストーリーをわかりやすくしていた」「同じ舞台上にオーケストラと歌手がのることで豪華さが増し、贅沢な旅をしてきたようだった」という声があった。

敷居が高いとされるオペラを、日本で一般娯楽として浸透させるのは並大抵のことではなく、様々な問題を未だ抱えている。今回のオペラ公演では若い世代の客層も多く見られた。これは衰退してきているオペラというジャンルの上演に対する問題提起に有意義な結果をもたらした一例であろう。これで終止符を打つのではなく、次の研究テーマに活かしこれからの現代社会に総合芸術の伝統を継承していけるよう努めていきたい所存である。

相愛大学特別演奏会助成公演

W.A.モーツァルト作曲

【全四幕原語上演・抜粋】

# フィガロの結婚

*Le nozze di Figaro*

指揮 奥村 哲也

監修 岩田 達宗

【キャスト】

アルマヴィーヴァ伯爵	米田 哲二
伯爵夫人	泉 貴子
フィガロ	山田 健司
スザンナ	田坂 蘭子
ケルビーノ	木澤 佐江子
バルトロ	片桐 直樹
マルチェリーナ	畑田 弘美
バジリオ	馬場 清孝
クルツィオ	出口 武
アントニオ	萬田 一樹

オーケストラ 相愛大学フィガロオーケストラ

チェンバロ 小椋 由美子

ナレーション 榎 千晶

2018年 **2月23日** (金) **いずみホール**  
**18時30分開演(17時30分開場)** **入場料:3,000円**  
 (全席当日指定・17時より座席指定券と交換)

※開場整理の都合上座席に関するご希望には添えかねます ※未就学児童のご入場はご遠慮いただいております

【チケット取り扱い】

いずみホールチケットセンター 06-6944-1188 (月～土10:00～17:30)

【ご予約・お問い合わせ】

相愛大学音楽学科合同研究室(荻山) 06-6612-6245 E-mail: seigaku@soai.ac.jp

主催: **SOAI** 相愛大学  
 SOAI UNIVERSITY

## 平成 30 年度 科学研究費補助金一覧

## 研究代表

課題	研究課題	研究代表者	
		氏名	所属・職
基盤研究 (C)	アートマネジメント人材育成における共創に向けたコミュニケーション能力の養成	志村 聖子	音楽学部・准教授
基盤研究 (C)	上司小剣に関する研究基盤の構築	荒井真理亜	人文学部・准教授
基盤研究 (C)	基地配備をめぐる社会学的研究－南西離島における基地建設と地域的記憶－	藤谷 忠昭	人文学部・教授
基盤研究 (C)	幼児教育保育における食育の実践的指導力を評価する指標の構築	進藤 容子	人間発達学部・教授
基盤研究 (C)	保育所保育士による保育ソーシャルワークの可能性と養成教育のあり方に関する研究	直島 正樹	人間発達学部・准教授
基盤研究 (C)	保育者養成課程で保護者支援を実践できる力をもつ保育者を養成する教育方法の研究	中西 利恵	人間発達学部・教授
基盤研究 (C)	外国につながるのある子どもと社会的養育－乳児院・母子生活支援施設の調査に基づいて	松島 京	人間発達学部・准教授
基盤研究 (C)	MRI 動画記録法を用いた口腔咽頭領域での嚥下調整食・とろみ食の流動評価	品川 英朗	人間発達学部・教授
基盤研究 (C)	担子菌類に含まれる複合脂質成分の解析と腸管免疫および全身性の免疫賦活作用の検討	庄條 愛子	人間発達学部・教授
基盤研究 (C)	共生社会の現実を目指す「複合的な学習の時間の指導法」の教職教育プログラムの開発	沼田 潤	共通教育センター・准教授
基盤研究 (C)	言語教育における単一言語主義から複言語主義への変容に関する比較的研究	長谷川精一	共通教育センター・教授
挑戦的研究 (萌芽)	ピアノ演奏におけるフレージングの意図伝達と個性表出に関する研究	橋田 光代	音楽学部・准教授

## 研究分担

課題	研究課題 (研究代表者)	研究分担者	
		氏名	所属・職
基盤研究 (B)	音楽演奏表情データベース PEDB の拡充とその実践的活用 (関西学院大学・片寄晴弘)	橋田 光代	音楽学部・准教授
基盤研究 (C)	日本近代文学と絵画のジャンル横断的交流に関する総合的研究 (東京大学・出口智之)	荒井真理亜	人文学部・准教授
基盤研究 (C)	保育者養成課程で保護者支援を実践できる力をもつ保育者を養成する教育方法の研究 (相愛大学・中西利恵)	曲田 映世	人間発達学部・助教
基盤研究 (C)	担子菌類に含まれる複合脂質成分の解析と腸管免疫および全身性の免疫賦活作用の検討 (相愛大学・庄條愛子)	水野 淨子	人間発達学部・教授
基盤研究 (C)	環境共生社会を見据えた市民としての資質向上を目指す融合型大学教育プログラムの開発 (佛教大学・林隆紀)	沼田 潤	共通教育センター・准教授
基盤研究 (C)	環境共生社会を見据えた市民としての資質向上を目指す融合型大学教育プログラムの開発 (佛教大学・林隆紀)	長谷川精一	共通教育センター・教授
基盤研究 (C)	共生社会の現実を目指す「複合的な学習の時間の指導法」の教職教育プログラムの開発 (相愛大学・沼田潤)	長谷川精一	共通教育センター・教授

平成 30 年度 外部団体よりの受託研究、共同研究及び教育研究奨励寄付金

教育研究奨励寄付金

助成団体	研究課題	研究代表者	
		氏名	所属・職
大学院・大学編入受験専門塾京都コムニタス	南海地域における仏教の社会的役割に関する調査研究	井上 陽	人文学部・准教授
(一般社) 全国栄養士養成施設協会	相愛大学学生が行う食育推進キャンペーン	多門 隆子	人間発達学部・教授
(一般社) 栄養改善普及会	第 55 回食品と栄養の移動教室 - 秋季コース -	竹山 育子	人間発達学部・准教授